

令和7年3月10日

足立区立寺地小学校 開かれた学校づくり協議会

令和6年度 学校関係評価書

1. 自己評価（学校経営計画・自己評価書）全般について

教育指導目標の施策が具体化されており、進行状況の結果が数値によって確認できる。

『学力向上アクションプラン』については区学力調査通過率において、4月の時点で国語は目標値を超えており、算数は下回った。ワークテストでは学校平均は80%を超えていたが全学級ではない。放課後学習及び朝学習においては計画通り実施され、タブレットを使用した個々の学習も並行して活用できた。また、授業改善では児童アンケートで「授業がよくわかった」の回答が93%という高い結果であった。

『社会力の育成』の自己肯定感や社会貢献意欲については前年より自己肯定感が64%から70%へと増加した。異学年交流活動等によって、言葉遣い92%、人間関係94%という結果は日頃の指導の成果が表れていると考えられる。

『健康な児童の育成』について児童の健康意識は肯定的回答として達成基準を下回った。また、体力テストの結果は学年により異なるが、全体的に瞬発力、柔軟性、俊敏性に課題がある。体力の向上として、楽しく体を動かす様々な経験と具体的な方策指導を今後も継続してほしい。「安心できる環境」は達成基準を上回った。今後も日常の見守りを行い安心安全な環境づくりを継続してほしい。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

『挨拶名人・靴揃え名人・廊下歩き名人』を生活習慣の取り組みとして児童が落ち着いた雰囲気のもと学習に取り組んでいて、健康的で明るく生活する様子が表れている。外で挨拶ができているとの声も寄せられている。今後も挨拶は推進していくとともに、地域とともに育つ寺地小の子どもたちとして、今年度の避難所運営訓練のように、学校・家庭・地域との連携を通して、人と人との触れ合う機会を教育活動の中に増やしていきたい。

教育委員会の主催事業として『放課後子ども教室』があり、地域の見守り協力によって行われている事業体制は保護者から「勉強をしてから遊ぶ習慣、社会で生きるための基礎となる力、社会性が身についてきている。」などの言葉が聞かれる。また、子どもたちが安心して放課後過ごせる貴重な場となっている。保護者・地域と共通認識することで連携して児童を育んでいきたい。

今後の社会を構成する子どもたちが、これからの時代を生きていくために、児童が主体的に取り組む学習や多様性の授業に対する教育を続けてほしい。